

## 第 7 回 IWG 世界女性スポーツ会議（ボツワナ）アジア地域分科会 報告書

野口亜弥

## 1. 日時

2018 年 5 月 17 日（木）8:00-10:00

## 2. 場所

コンベンションセンターボツワナ Serondela 1 & 2 ルーム  
（ハボローネ、ボツワナ）

## 3. 参加者

10 か国 20 人（日本、韓国、中国、UAE、イスラエル、マレーシア、インド、ベトナム、バングラデシュ、スリランカ）。所属先は、国際スポーツ組織、IF、NF、大学、企業、選手、NGO 等 張 周鎬 TAFISA 会長も出席



## 4. 成果

A) 2001 年に創設されたアジア女性スポーツネットワークの歴史の共有（IWG アジア代表 小笠原悦子センター長より）

B) 参加者からの自己紹介及びコメント

- 東京 2020 のレガシープログラムの 1 つである、筑波大学の TIAS プログラムを紹介。15 名の海外の学生のための奨学金あり。(de Soysa, 日本/スリランカ)
- 東京 2020 のレガシーであり日本政府のスポーツを通じた国際協力プログラムの Sport for Tomorrow 事業を紹介。100 か国 1000 万人の人にスポーツの価値を届ける活動をしている。(岸, 日本)
- 国際クリケット協会はアジア地域を大きいマーケットになる可能性があるとみている。ICF はアジアデベロップメントストラテジーを作成する予定。(Colvin, UAE)
- 国際レスリング協会は理事メンバーにクォーター制を導入している。女性レフリーの数が少ないことも課題である。フィンランドでの世界大会では、アジアからの女性レフリーはトルコ人 1 人であった。(Liang, 中国)
- 2019 TAFISA World Congress が 2019 年 11 月 13 日～17 日まで日本で開催される。'Discrimination against women and race' がトピックの 1 つに入り、共同議長のルース氏が基調講演を実施することになっている。(張 周鎬 TAFISA 会長, 韓国)
- NASHATA はアスリートヒジャブを開発している企業である。アスリートヒジャブを広めることにより、ムスリムの女性のアクティブなライフスタイルを推奨している。Eliza Noordin 氏は本事業の創設者であり女性起業家でもある。UAE 出身のアスリートヒジャブアンパサダーの Nura Arabi 氏と同製品を紹介した。(Noordin, マレーシア/ Nura, UAE)
- Football for All in Vietnam (FFAV) は、ノルウェーと連携して、ライフスキルトレーニングを含むプロジェクトを実施している。(Huong, ベトナム)
- スポーツ庁から第 1 回日 ASEAN スポーツ大臣会合の共同声明及び、ASEAN の女性のスポーツ実施率向上のためのコンセプトノートの資料が提出され、女性スポーツ研究センターの野口から補足説明がなされた。これらは、第 1 回日 ASEAN スポーツ大臣会合にて ASEAN 各国政府及び日本政府によって合意された成果文書である。共同声明の中に明記されている、日本と ASEAN 各国間の 4 つの優先協力分野に女性のスポーツの実施率の向上が含まれている。(野口, 日本)

C) アジア地域における効果的なアクティブコミュニケーションとは。

- アジア地域において、女性スポーツを推進するために新たなネットワーキングシステムを作る必要がある。
- 前回 2014 年にフィンランドにて開催された、第 6 回 IWG 世界女性スポーツ会議でフェイスブックページに非公式のグループを作成したが、残念ながら、アジア地域全体の活発な意見や情報の共有には発展しなかった。
- 参加者に Facebook の非公式グループへの参加を薦め、各国の情報共有をしてほしいことを伝えた。
- **本地域会議のまとめとして、定期的なミーティングや会議を開催することが、アジアの女性スポーツネットを拡大し、強化することにつながる 1 つの解決策ではないかという結論に達した。（アジアは多様な文化や言語から、オンラインのみのプラットフォームだけでは難しい）**
- 会議の中で、各国のコンタクトパーソンを明確にし、今後各国の女性スポーツの動きはコンタクトパーソンを中心に収集することとなった。

第 7 回 IWG 世界女性スポーツ会議（ボツワナ）レガシードキュメント  
及び、次回会議について

野口亜弥

1. 背景

1994 年の第 1 回世界女性スポーツ会議から始まった世界の女性スポーツのムーブメントにより、24 年間で女性スポーツに関する「事実」と「知識と経験」が蓄積された。次のステップとして、ジェンダー平等のスポーツ文化を構築するという長期目標を達成するために具体的な「アクション」を起こし女性スポーツの発展を「モニタリング」することが必要である。「ブライトン・プラス・ヘルシンキ宣言」、「IWG 進捗レポート 2014-2018」、更に、本会議のレガシードキュメントである「IWG ボツワナピック 5」をツールとして、多様なステークホルダーと共に具体的な「アクション」とそのアクションの「モニタリング」をしていく必要がある。

2. レガシードキュメント：「IWG ボツワナピック 5」（ 仮訳）

メディア（Media）

メディアと連携し、SNS を活用して、女性とスポーツのメディア露出を増やすとともにステレオタイプにとらわれずに女性を描写する。

説明責任（Accountability）

説明責任とジェンダー平等のために、女性と男性のスポーツへの資金を含めたリソースの配分や透明性を向上させる。

代表者（Representative）

指導者、運営スタッフ、意思決定ポジションにおける平等なリーダーシップの役割を全ての団体に求める。女性のスポーツ実施率と意思決定機関への参画の目標値を強く追求する。

研究から実践（Research to Practice）

女性の権利と女性自身の行動の自由を含む、スポーツ界のジェンダー平等、セーフティー、非暴力な環境、そして透明性に関する、エビデンスにもとづいた政策と実践を実施する。

コミュニケーション（Communication）

女性スポーツの最新のニュース、調査研究、良好な事例、組織の発展などの情報のハブとなる IWG デジタルプラットフォームを構築し、ブライトン・プラス・ヘルシンキ宣言の更なる署名者を戦略的に増やす。

3. 第 8 回世界女性スポーツ会議について

- 時期：2022 年
- 場所：オークランド、ニュージーランド  
2018 年～2022 年の IWG 事務局はニュージーランド
- 共同議長：  
Ms. Raewyn Lovett (NZ)  
Ms. Ruth Maphorisa (Botswana)



4. その他

- IOC が 2018 年 3 月に発表した、「IOC Gender Equality Review Report」について、非常に高い関心が示されていた。上記レポートには IOC から各国の NOC や IF 等に対するの 25 の改革案（レコメンデーション）を明記しており、レコメンデーションにはアクションとして具体的な期限や数値が含まれているものもある。国際体操連盟渡辺会長は上記レコメンデーション作成の WG として活動されていた。
- 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を控えた日本に対する世界からの期待は非常に高く、歴代の IWG の共同議長を務め、2017 年に IOC の Women and World Trophy を受賞した Brigitta Kervinen 氏は「東京 2020 は IWG にとっても、次のステップの機運になりうる」と大きな期待を寄せた。

